

# 有限会社 協栄農場

## ■ 設立からまもなく50年、従業員の福利厚生を重視した経営



### 〈法人の概要〉

所在地:〒085-1147 鶴居村字幌呂北1線26番地

代表者:代表取締役 藤澤常行

構成員:5名(構成農家5戸)

役員:4名 常時雇用者:6名

設立:昭和39年5月 資本金:1,731万円

事業内容:酪農

牧草 213ha、デントコーン 40ha、乳用経産牛 311頭、

乳用育成牛 232頭、年間生乳生産量 2,850t

(H23年)

経営面積:253ha

売上高:3億4,481万円(H22年)

電話:0154-65-2337 FAX:0154-65-2279

### 〈法人のあゆみ〉

昭和39年	構成員9戸で有限会社協栄農場を設立、乳牛総頭数86頭(うち経産牛49頭)、年間生乳生産量166tでスタート、同年末に総合牛舎に移転
43年	育成牛舎竣工(40坪)
48年	バルククーラー(6t)設置
49年	鶴居村経営功労賞受賞
51年	生乳出荷800tを超える
52年	北海道産業貢献賞受賞
62年	社会保険・厚生年金に加入
平成2年	公社畜産基地建設事業開始、フリーストール・ミルクングパーラー施設完成
3年	経産牛頭数200頭を超える
5年	育成・乾乳舎・治療・分娩・哺育舎建設
6年	第23回日本農業賞北海道ブロック個別経営体の部最優秀賞受賞
14年	経産牛用フリーストール牛舎100頭分増設、堆肥処理施設用固液分離器導入
17年	分娩舎建設
22年	1頭あたり乳量1万kgを超える
23年	構成員10名、乳牛総頭数508頭(うち経産牛311頭)、年間牛乳生産量2,850t

### 〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・昭和39年5月、9戸で有限会社協栄農場を設立。乳牛総頭数86頭(うち成牛49頭)、年間生乳生産量166tでスタートした。同年12月に総合牛舎に移転が完了。設立から47年が経過し、現在の代表は2代目となる。
- ・昭和40年代に、育成牛舎、バルククーラー等を整備し、昭和51年には年間の生乳出荷量が800tを超えた。
- ・昭和62年に、従業員の福利厚生の充実を図るため、社会保険・厚生年金に加入。
- ・平成2年に、北海道農業開発公社の畜産基地建設事業を開始、同年11月にフリーストール・ミルクングパーラー施設が完成した。
- ・平成3年に経産牛頭数が200頭を超え、平成5年10月に育成・乾乳舎・治療・哺育舎を建設した。
- ・平成6年4月に、第23回日本農業賞北海道ブロック個別経営体の部最優秀賞受賞。
- ・平成22年、1頭あたりの乳量が1万kgを超え、平成23年現在の構成員は10名となり、乳牛総頭数506頭(うち経産牛311頭)、年間生乳生産量は2,850tとなる。

### 〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・設立当初は基本給が低かったことから、退職金の支給率を高率に設定。このため、社会情勢等による基本給の上昇や、就業規則の改正を行っていないことが重なり、退職金が高額となっている。次回の総会で時代にあった就業規則に改正する予定。

### 〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・ローテーションにより、休日を取得することができるようになった。
- ・社会保険の加入により、福利厚生の実施を図ることができた。
- ・各部門別に責任者を置くことにより、業務に対する責任感を持つことができる。

### 〈法人が継続するためのポイント〉

- ・給料を高くすることで、従業員の心に余裕を持たせ、従業員の間人間関係を良好にする。
- ・余計な経費をかけないように資産(施設・機械)が過剰にならないようにする。

### 〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・すべてを一人で把握することは困難であるため、牛、機械、畑等の各部門で、それぞれ専門となる人がいるようにすることが良い。
- ・生産コストを下げよう努めること。
- ・ふん尿の有効活用を図ること。

### 〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・65歳定年制をとっている。60歳から5年間は基本給を1割減額している。
- ・休日については、夏場の農繁期は月に3日程度、冬場の農閑期は月に4日程度、有給は年11日。
- ・賞与は年2回で計3ヵ月分相当を支給。家族手当、早出手当等を支給。
- ・社会保険に加入し、福利厚生の実施を図っている。従業員の福利厚生を重視していることから、施設・機械の投資は慎重に行っている。

### 〈専門部体制〉

- ・専門部体制とし、各部に責任者を配置。

5部体制: 管理部、畜産部、農務部、機械部、施設管理部

- ・社員協議会(月例会)を開催し、作業計画の徹底、合意形成、従業員からの提案事項の検討、専門部からの報告と対策の検討を実施している。

### 〈経営目標と将来の展望〉

- ・設立から47年を経過し、今後は次の世代が3代目の代表となるので、円滑な継承を図っていく。
- ・継承にあたっては、自分自身で考えることを重視しているので、次代を担う者が自分で考えてスタイルを決めていくこととなる。

### 〈視察等の受入〉

詳細については要相談。

連絡先: 0154-65-2337 (担当: 代表取締役 藤澤常行)